



全村エコパーク化への取組 花と水の村 東村

沖縄県東村の概要(平成26年)

位置：沖縄県沖縄本島北部の太平洋側
面積：81.8K²m²(うち農地7.2K²m²、森林58.1K²m²)
人口：1,897人
主要産業：農業、観光業
主要作物：パインアップル、タンカン、マンゴー
特徴：クリーンエネルギー導入による全村エコパーク化の推進



東村における全村エコパーク化推進構想



課題

「エコ」をキーワードに、自然環境を活かした観光が定着している。更なる交流人口の増加を目指し、新たなメニュー作りが課題となっている。

豊かな森林が湛える水資源を背景にダム施設が整備され、水力発電を行っている。その他、亜熱帯の豊富な自然エネルギーの有効活用が望まれている。

台風襲来時の停電は、遠隔地であるゆえ復旧作業も遅れがちで長時間にわたる場合が多い。住民生活や観光振興にも支障をきたしている。

沖縄県特殊事情

本県は地理的・地形的及び需要規模の制約によりエネルギーの多くを化石燃料に頼らざるを得ない状況にある。(沖縄21世紀ビジョン基本計画抜粋)

沖縄県は島しょ県であると同時に台風の常襲地域でもあり、自然災害を被りやすい地域である。(沖縄21世紀ビジョン基本計画抜粋)

クリーンエネルギー活用

クリーンエネルギー導入モデル村の形成

クリーンエネルギーの導入と普及促進

本村の薪炭材などで生計を立ててきた歴史的背景や、台風等による停電など「人と自然とエネルギー」を考える場所として最適である。クリーンエネルギーの普及と啓発を図るモデル村の形成を図る。



太陽光発電施設の導入



エコカー導入



スマートグリッド導入



体験・学習施設の導入

○公共施設への太陽光発電やエコカー導入、蓄電池、スマートグリッドシステムの導入と、「電力の見える化」など「体験施設」の導入を図る。

豊かな資源を活用した発電



水の豊富な本村の特性を生かし、再生可能エネルギーの活用を推進する。

効果

新たな観光メニューの創出

エネルギーを題材とした新たな観光メニューの開発で需要の掘り起こしと滞在時間の延長が図られる。

クリーンエネルギーの普及促進

豊富な自然資源を活かしたクリーンエネルギーのPRや体験などにより意識を啓発し、普及促進につながる。

安心・安全な暮らしの確保

自己電源の確保により台風時などの暮らしや観光滞在などの安心・安全確保が図られる。

普及促進

学校・住民向けの取組紹介

エネルギーの歴史的背景から、「人と自然とエネルギー」の関わりを考えるプログラムの開発と、太陽光・水力発電といったクリーンエネルギーを利用することによる、CO2削減効果を児童生徒や住民に実体験を通して学ぶ場を提供する。

観光客向けの取組紹介

東村内外からのお客様に、太陽光・水力発電の取組を紹介し、自然エネルギー活用法を紹介する。

農林業分野での導入事例



東村総合農産加工施設太陽光発電

パインアップル等果樹の缶詰及び果汁及びそれらを使った2次加工品(ジャム、ゼリー、発酵コラーゲン等)の製造拠点施設。使用される電力の35%を太陽光発電で賄い、経費削減を実現している。

年間発電量232,790kWh

東村特産品加工直売所太陽光発電

東村のお土産処。特産品のパインアップルをはじめ、村内の農産物や農産加工品等を販売する拠点施設。使用される電力の19%を太陽光発電で賄い、経費削減を実現している。

年間発電量45,250kWh

村民の森つつじエコパーク太陽光発電

オートキャンプ場やバンガロー、パークゴルフ場、沖縄初のPAプログラム(プロジェクトアドベンチャー(冒険教育))施設等が整備された村の観光拠点施設。毎年3月に開催される「東村つつじ祭り」では、花木や特産品の販売が行われている。使用される電力の3%を太陽光発電で賄い、経費削減を実現している。

年間発電量30,090kWh

お問合せ先：沖縄県国頭郡東村役場 総務財政課 TEL 0980-43-2201